平成19年度

自主防災だより

～「自主防災の活動事例」～

＜稲穂連合町内会で災害頭上訓練＞

＜手稲区＞

～避難場所の自主運営について考える～

平成18年11月24日に稲穂会館で、稲穂連合町内会災害頭上訓練が行われた。

これは、大災害が発生し家屋の倒壊・ライフラインの寸断などが引き起こされ、着の身着のまま避難した人々が、避難場所で生活するための組織体制を作るためにはどのようなことが必要かを議論し理解を深めることを目的に、稲穂連合町内会（一ノ宮博昭会長）が主催したものである。

当日は、区域内の町内会長・民生委員だけでなく、手稲区・手稲消防署・手稲警察署の担当者を含め、約60人が参加した。

頭上訓練としたのは、参加者が実際の災害でボランティアとして避難場所で体験したことを話し、これを基に、避難場所ではどのような規律・役割が必要かを頭上で考え、議論し、模造紙に記入する手法で行ったことから、簡易型災害図上訓練（DIG）ではなく、頭上訓練と題して行った。

ある災害で避難場所ボランティアをした町内会役員が「被災者は被害者意識を持っているのは分かるが、食事を配給するボランティアに対し、＜こっちに早くよこせ＞と威圧的な態度を取ったりしてしまう人が出た。これでは、避難場所での共同生活に亀裂が生じます。我々がリーダーシップを持って、可能な限り全員に役割を与えていく必要があります。」と報告した。

このような災害現場での切実な現実を、多くの参加者は真剣な表情で聞き入っていた。

＜まとめ＞

この日は、災害発生から避難場所での生活を始めるまでの取り組みについて、様々な意見が出された。暁星第四町内会（木村盛一会長）から、「各学校の体育館などに、災害で避難してきた際にまずやるべきこと（ルール）を掲示しておくのはどうか」という意見が出され、参加者全員が拍手したところで訓練は終了した。

一ノ宮会長は、「たくさんの意見・体験をお聞きすることができました。これらをまとめて再びみなさんで議論し、町内会・避難場所でいざという時に備えるマニュアルを作ることを目標に町内会での取り組みを進めます。」と感想を話していた。